

狗留孫岳

772m

・鳥帽子岳

865m

なだらかに続く美しい樹林回廊

二次林の静かな尾根歩き

くるそんだけ、クレソンのようなクルトンのような、可愛らしい語感の山だ。
 麓から見れば黒々と植林の山、旧白石鉱山に削られた痛々しい山といったイメージかもしれないが、登ってびっくり悔るなかれ、この山の良さは美しい自然林(二次林)にあった！ちなみに二次林とは炭焼きなどで伐られたあと再生した木々の事を指す。鈴鹿山系は、かつての家庭燃料である炭の生産を支えた山ゆえに、樹齢の長い巨木を見る機会は少ない。さて、麓にある古刹「長楽寺」から篠立林道を奥へ、しばらくして植林の山道へ入る。山頂より南下する尾根に乗れば一変、感じの良い自然林へと変わる。
 特に山頂直下辺りは右に植林左に自然林ながらその雰囲気は秀逸だ。山頂は電波の反射板がそびえるものの、御池や三国方面の展望が雄大。穏やかに晴れた日ならば、ほかほかとひなたぼっこが似合う、そんな場所である。

借しくも岐阜？の鳥帽子岳へ

やや細い道へ分け入り、鳥帽子岳を目指そう。なだらかな尾根道はさらに美しさを増し、気持ちよさ全開！人も少なく独占気分な樹林の回廊を満喫出来るころ、山頂脇の最高点で別の道と合流、右へ折ればすぐに三角点のある鳥帽子岳山頂だ。ここで借しくも岐阜、三重の県境は最高点から左へ、三国岳方面へ向かうため、厳密には山頂は数十メートルの差で三重県ではない。どちらかといえば岐阜県側から登る道がメインだし、春には花も多く楽しめるコースなのは間違いない。それでも狗留孫からの道はまた違った表情を見せてくれるゆえ、歩いておくべき道であることも間違いない。いなべから登る良さは、他人に会うことも稀な静かに浸れる樹林の道であること、イコール初心者には道迷いなど心もとない道かもしれないが、経験者の同行と共にぜひ体感して欲しい。オススメはやはり新緑や紅葉の美しい5月、11月ごろかな。夏季は植林帯でヒルも多いことだし。

篠立の風穴の存在

ところで狗留孫の麓には篠立の風穴という洞窟がある。洞口は封鎖されているが、石灰岩地帯における地形の面白さの一端を見る思いで、山の内部にはまだまだ未知の空間が眠っているのかもしれないと考え、ロマンを感じずにはいられない。その洞内には新種として発見命名された生物も生息し、貴重な場所である。



狗留孫山頂直下の美林



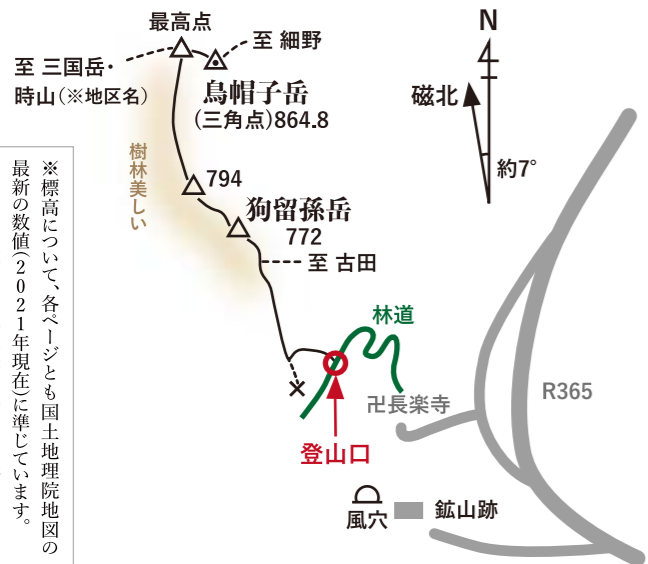
木和田尾より望む狗留孫岳



篠立の風穴の洞口。環境保全のため入り口は封鎖されている。



かつては山裾に石灰岩を採石、精製する工場もあり象徴的だったが、現在は解体され、荒々しい採石跡の岸壁を見るのみである。



※標高について、各ページとも国土地理院地図の最新の数値(2021年現在)に準じています。そのため一部の山で、従来の地図や実際に山頂に掲げられた数値とは若干の差異があります。